

## 《 杉並区「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」の結果 》

今年度も5月に3～6年生を対象に杉並区「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」を行いました。杉並区では、すべての児童に対し、義務教育期間の終了までに、人生の基盤となる学力について、基礎での学び残しやつまづきを解消し、活用する力のより一層の育成を目指しています。この調査は、その目標達成に向けて、本区特有の課題、本校特有の課題がどこにあるのかを明らかにするためのものです。

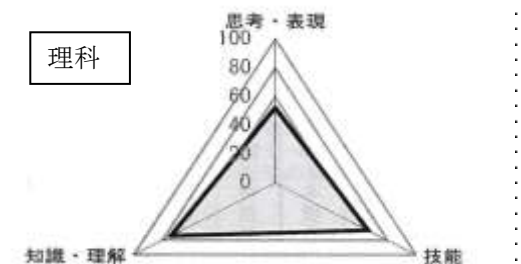
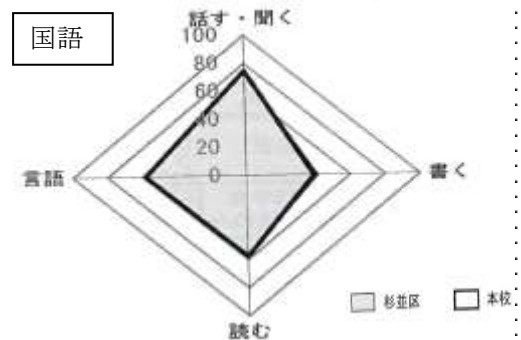
今年度、国語・算数は3～6年生、理科は4年生と5年生を対象に実施しました。この調査の学校全体の結果について報告します。

右の図は、各教科観点別の正答率をレーダーチャートに示したものです。平均正答率を見ますと、本校は、杉並区の平均とほとんど重なっていることが分かります。教科全体でいうと、国語科では杉並区全体が56.5%に対し本校も56.5%、算数科については、杉並区全体が63.1%に対し本校は63.8%、理科は、杉並区全体が64.9%で本校は64.8%でした。さらに観点別に見ると、国語科では「話す・聞く能力」の正答率は74.7%ですが、「書く能力」が39.1%で、区の平均は上回っているものの、ここが昨年度からの本校の課題であるといえます。校内研究で取り組んでいる算数科は、すべての項目で区の平均を上回っています。今後とも、さらに「数学的思考方」をのばすための授業に引き続き取り組んでいきたいと思ひます。理科は、技能がやや区の平均を下回ったものの、知識・理解では上回っていました。都や国の学力調査とも合わせて考察し、さらに「思考・表現」の力を伸ばしていければと思ひます。

そんな中で、細かいところですが、昨年度の校内研究で3年生が取り組んだ「円と球」の単元から出題された4年算数の問題は、内接する円の直径を活用して周りの図形の長さを求めるという、「数学的な考え方」の力を求められる難易度の高い問題でしたが、本校の4年生の正答率は区の平均を13.1ポイント上回る64.4%でした。校内研究での成果がはっきりと表れています。

また、学習・生活についてのアンケートの中で、「授業中、ペアやグループで活動したり話し合ったりする時間が多い。」という設問に対して、全体で76.9%、6年生だけでは82.9%の児童が肯定的な回答をしています。「授業で学んだことを、ノートなどで自分なりに分かりやすくまとめている。」という設問には、肯定的な回答は、全体で80.8%でした。これらのことから、校内研究で取り組んでいる算数だけでなく、様々な教科・場面で、「主体的・対話的な学び」に児童が前向きに取り組んでいる姿勢が読み取れ、大変うれしく思ひます。

しかし、「授業では自分の得意な部分をのばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、一人で学んだり、先生が個別で教えてくれたりする時間がある。」という設問に対して、中学年では肯定的に回答した児童が38.2%、学年が上がるにつれ肯定率も上がり、6年生では72%と高くなるのですが、やはり気になる所です。まだまだ、教師側の一人一人に合った手立てや配慮が必要だという反省材料となりました。これらの結果をもとに学力向上のための対策を、学年ごとに立てる研修会も8月末に予定しています、その成果を生かし、教職員一丸となり2学期以降の授業に取り組んでいきたいと思ひます。3年生以上の児童には、個票も配布します。お子さんと共に御覧になり、今後の御家庭での学習や過ごし方などに生かしていただければ幸いです。



■正答率分布状況

全学年の児童生徒の教科全体の正答率の分布状況(%)をグラフにしたものです。

